

令和8年3月11日

福井市上下水道事業管理者 塚谷 朋美 様

福井市下水道事業経営戦略策定審議委員会

委員長 南 保 晴

「福井市下水道事業経営戦略2026」の策定について（提言）

みだしのことについて、下記の意見を付して別添のとおり提言します。

記

1 「老朽化対策」および「防災・減災対策」の推進

能登半島地震や埼玉県八潮市で発生した道路陥没事故では、下水道施設の損壊や使用制限に伴い市民生活に大きな影響を与え、下水道の重要性が再認識された。

しかしながら、本市の下水道施設は、老朽化が進行し、地震や大雨など災害への備えが十分でない状況にある。

下水道の安全性を確保するため、既存の取組に加え、災害で得た教訓や新たな技術を活かし、老朽化対策および防災・減災対策を着実に推進していただきたい。

2 「収支改善に向けた取組」の推進

人口減少や物価高騰など、下水道事業を取り巻く経営環境は一層厳しさを増しており、今後は、市の一般会計からの多額の経営補助がなければ、収支均衡を維持できない見通しである。

しかしながら、本来は下水道使用料等の収入で賄うべきものであるため、持続可能な健全経営に向けて、適正な下水道使用料水準の検討を行うとともに、官民連携による事業の効率化など、収支改善に向けた取組を着実に推進していただきたい。

3 「下水道事業の見える化」の推進

下水道は、生活に不可欠なインフラでありながら、日常的に意識されにくく、その役割や重要性が市民に十分伝わっていないと考えられる。今後、本経営戦略に掲げる取組を進めるためには、下水道事業に対する市民の理解と協力が不可欠である。

下水道の役割や重要性、経営状況、安全性の確保や事業効率化に向けた取組の実施状況等について、積極的に分かりやすい情報発信を行っていただきたい。